

記念講演

協同的企業 (The Co-operative)

私は、皆さん方からいただいたいくつかの資料を読みました。私はその哲学にまったく賛成です。皆さん方は、経験から学んでいるのです。また、カナダやスペインにおける私達の幾人かも、同じような経験から学んでいます。古い形の大企業がよく機能していないことに、私達の意見は一致しています。地域とそこで働く人たちは、充実した人生を送ることができるような新しい形態を追求しています。私は、組織された労働者が企業を所有するうえで、皆さん方の成果に驚きと感銘をうけています。

私は、コミュニティ・ビジネスセクター (Community Business Sector) ということばを使うことを好みます。それには、地域の住民がよりよい生活を送ることができるように貢献する企業と協同組合労働者が含まれます。これは、株主の富を増やすことを主な目的とする大企業と異なります。コミュニティ・ビジネスの未来のためのいくつかの重要な特質について、皆さんが注目することを私は薦めます。

1. 協同的企業の異なるタイプの 商業的統合について

私は、皆さん方が統合された構造を持つように企業を発展させ続けることを望みます。カナダでは、協同組織金融、消費者協同組合、生産者協同組合が独立して運営しています。彼らは、政治的に結合していますが、ビジネスの上で結びついていません。彼らは対話を共にしていますが、しかしビジネスを共にはしていません。もし、カナダの協同組合が連合すれば、これはカナダで一番大きな企業となるでしょう。

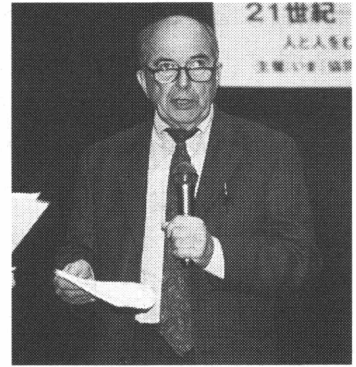
スペインのモンドラゴンの大きな教訓の1つは、協同組織金融、生産者協同組合、販売協同組合、大学が企業的構造をリンクさせていることです。彼らは、またその組織の中に、旅行会社ももっています。すべてのお金が、共同して働くために貯えられています。

ここでは、1つの企業に仕事がないときは、労働者は同じ協同的システムのもとにある他の企業に働きに行くことができ、これが生涯雇用を維持させているわけです。

大企業による新しい合併が、毎週発表され

Corporation)

グレッグ・マクラウド／翻訳：玄幡 真美（日本労協連）



ています。フランスのルノーは、日産を買収するかもしれないし、ベル電話会社は、IBMを買収するかもしれない。しかし、彼らが、こうした合併を語るとき、その目的は労働者の削減にあります。そうした合併は、大企業に数千人の労働者と、そのコストを減らすことを認めています。

モンドラゴンの哲学は、これとまったく異なっています。そこでは、拡大と合併を発表する度に、数千の仕事おこしをしています。このシステムのもとでは、けっして労働部門を減らすことをしていません。この基本的違いが、政策において深い相違を示しています。

私のキイポイントは、政策において共同するだけでは十分でなく、私たちはビジネスにおいて共同しなければならない、ということです。労働者協同組合連合が、そういう方向にいくよう私は薦めます。

2. 専門的な経営の重要性

ときどき、協同組合運動や労働組合運動にかかわる人々は、真摯で誠実な態度がよい結

果をもたらす、と信じています。しかし、これだけでは、十分ではありません。コミュニティ・ビジネスの重大な挑戦の1つは、第1級のマネージャーを見出すことです。カナダでは、大学の最良の卒業生はグローバルな企業で働くことを望んでいます。

コミュニティ・ビジネスは、高い資質を持った人をリクルートしなければ成功しないでしょう。カナダの私の地域では、大学の優秀な卒業生に単純に利益をつくるのではなく、地域に貢献するような企業に就職するような魅力づくりをしています。

モンドラゴンでは、最上の卒業生をリクルートすることに注意を払い、協同組合でマネージャーになるように訓練しています。彼らの多くは、技術者でどんな大企業でも働くことができます。しかし、彼らはバスク地域を向上させるように働くことを好んでいます。

3. コミュニティ・ビジネスには、大学からの支援が必要

今日の経済では、科学と技術が大変重要で、日本とカナダのような国では、財務や商

務活動に関する法律がたいへん技術的になっていっています。大企業は、研究に使う費用や資金をもっています。日本の協同組合連合は、こうした研究費用に使うような資金をもっています。私は大学が、その優秀な頭脳をコミュニティ・ビジネスの成功を手助けするように使うべきだと提案します。大学のトレンドは、ゼネラル・モーターズ、マイクロソフト、トヨタのための新しい技術を発見することです。これは正しくない、と私は信じています。大学の義務は、大きなグローバルな企業だけでなく、地域に奉仕することです。地方のコミュニティを支援する最上の方法は、コミュニティ・ビジネスセクターを援助することです。

私は皆さん方が、大学に協同組合について調査する研究所をもつことを望みます。

モンドラゴンでは、大学が地域に富や仕事を創り出すような新しい種類の企業のための研究を行なっています。

4.コミュニティ・ビジネスは地域に根をおろさなければならない

カナダや日本の消費者協同組合の本部が首都にあり、一方別の協同組織金融の本部が、首都にあるような場合問題が生じます。それは、非常に中央集権的です。すべてのネットワークが本部に集中し、すべてが本部でコントロールされているわけですから。

私は、それぞれの地方で地方的統合がされているように提案します。カナダでの理想的状況としては、東部、中央、北部、西部などのように地域ごとに統合された企業体がある

ことです。地域ごとの企業体では、金融、生産、販売に関する企業と大学がリンクしています。

私は、東部カナダに住んでいます。もし、協同組合の本部がカナダの中央にあれば、私たちを援助しないし、私たちのことを忘れてしまうでしょう。かれらは、東部に住む我々の利益より、中央に住む人達の利益を優先するでしょう。

多くの人びとは、グローバルな企業に反対でしょう。なぜなら、それはカナダや日本の外から、コントロールされているからです。もし、企業が、ニューヨーク、トロントからコントロールされていれば、カナダの西部や北部に住む私たちを支援しないででしょう。

地方企業の中央的コントロールは、実際事業がおこなわれているところから、200キロメートル以上離れるべきではないといえます。私は、労働者協同組合が地域ごとに事業団を持っていることを知っています。これは、地方のコミュニティが参加するという上で重要です。

5.地方の投資資本の共同管理が必要

私たち全員が、企業は資本なしに成長できないことを知っています。しばしば、コミュニティ・ビジネスグループは、資本不足を訴えます。しかし、資本はいつも手元にあり、問題は私たちがそれを流失することを認めていることです。自らの資本を私たちはつかまえていません。企業と労働者が、そのお金を国際銀行に貯蓄する時、それをコントロールする力を私たちは失っているのです。

すべてのコミュニティ・ビジネスが、その

統合システムの1部分にそれ自身の投資銀行を
発展させるべきだ、と私は信じています。と
きに、コミュニティ・ビジネスの指導者達は、
利益を得ることを恥じだと考えています。私
は、利益を得ることはよいことだと思っていま
す。できる限り多くの利益をつくりだすべき
なのです。それから、利益の割合を換算し、
それを投資費用として使うことができます。
その利益はまた、労働者へのボーナスとして
活用できます。

もし、利益をつくらなければ、私たちはす
ぐに死んでしまい、それは誰の利益にもなら
ないでしょう。モンドラゴンでは70%を労働
者へのボーナスに、20%を資本の積み立てに、
10%を地域文化の振興というように利益が分
けられます。

すべての地域で、その状況に応じてその割
合が違います。モンドラゴンで労働者がボー
ナスを受け取るのは、彼らが退職したときだ
けです。そこで、より多くの資本が企業拡大
のために投資されるわけです。

結論

グローバルな企業は、どんな特定の地理的
コミュニティにも忠誠心を持っていません。
協同的企業は、特定のコミュニティの経済の
ために創られることを、私は提案します。企
業は、特別な地域のニーズのためによって立
つ構造をもっています。その時、地方に基盤
を置く企業は、グローバルな企業への対抗文
化として存在するでしょう。それらの企業は
小さくなければならない、ということはありません。

しかし、彼らは、国際的な企業合併によら
ず大きくなるでしょう。むしろ、その合併は、
ローカルなものです。例えば、それはスペイ
ンのモンドラゴン、イタリアのエミリアロー
マニアのように。それらの企業構造は、地方
的統合を基礎としています。このすべてが、
文化とリンクしています。もし、企業がロー
カルにコントロールされていなければ、その
時、文化の地方的コントロールもないでしょ
う。グローバルな経済は、世界中にグローバ
ルで均一な文化を提供しています。地域に根
ざした企業について私たちが語るとき、それ
はまた地域に根ざした文化をも語っているの
です。

皆さん方は、すでにこの主要な仕事を日本
で始めています。私は、それが大きく成功す
ることを祈っています。

